



⑨上富のお囃子。獅子舞が子どもの手を噛み縁起を担ぐ。⑩ソーラン節を踊る。ここは子どもたちの晴れの舞台だ。⑪流し踊り。三芳町オリジナル「みよし音頭」を踊る。⑫体の何倍もある旗を力いっぱい振り回す。子どもたちも大喜び。⑬きたみ太鼓の組太鼓。ダイナミックな演奏で、観る人を惹きつける。⑭旗を振る子ども。腕に力が入る。⑮被災地支援として、東北物産展が出店。三陸産の牡蠣味噌などが販売された。⑯北永井のお囃子。演奏するのは笛の腕前が町内一といわれる高山さん。⑰迫力あるお囃子の演技に思わず足を止める。赤ちゃんもその踊りを見つめる。心に焼き付いたのだろうか。⑱パフォーマンス広場では子どもたちが切れのあるダンスを披露。

①②気合いを込め地域の神輿を担ぐ。③ロックソーラン節の演技直前。この微笑みは緊張を楽しんでいるようだ。④太鼓をたたき表情は心から演奏を楽しんでいる。⑤神輿は女性も担ぐ。⑥よさこいを踊る。そのまなざしの先に何が見えるのか。⑦けやき連による踊阿波踊り。⑧会場の練り歩きを終え、元の場所に戻る神輿。

## 第23回 みよしまつり

地域がひとつに、地元愛を感じることができる年に一度のまちの祭典

毎年9月の第1土曜日に行われる「みよしまつり」。今年も夏の終わりの風物詩として9月7日(土)に役場周辺を中心に行われ、4万5千人が来場しました。

みよしまつりの歴史を皆さんご存知でしょうか。平成元年に三芳生誕100年を記念して開催された「みよし100年まつり」。翌年には町政施行20周年記念として「第1回みよしまつり」が行われ、今年はその23回目の開催となりました。東日本大震災が起きた2年前に行われたまつりは「復興支援」をテーマに行われ、エコバックやオリジナルTシャツを販売し、その収益を被災地へ届け、花火打ち上げの前には来場者全員で黙とうを捧げました。

今年のまつりでは、模擬店のほか神輿、お囃子、流し踊り、阿波踊り、組太鼓などが行われ、会場の盛り上がりが高潮になったところで打ち上げ花火2千発が華麗に夜空を彩りました。

老若男女が楽しめる、地域が一つになる、地元愛を感じることができる「みよしまつり」。思い出の1ページとして皆さんの心にずっと残ることでしょ。 ■

## 夜空を彩った 2,000 発の花火

1年に一度、三芳町の夜空を彩る花火。今年も2,000発が打ち上げられました。みよしまつりの花火の醍醐味は何と言っても「距離が近い」こと。視覚・聴覚で感じることができる三芳の花火。目と耳で楽しむことができ、花火が咲くときには、体に振動が響きます。まさに体全体で花火を満喫することができます。

